

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：33061

学校名：市立札幌開成中等教育学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度の種目もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、 20mシャトルラン、立ち幅跳び、50m走、 ハンドボール投げ	○前回の記録より下回った種目 持久走	男女とも多くの種目において、昨年度よりも上回る記録となり、体力合計点においても全国の平均に近づく結果となった。ただし男子の持久走に関しては、依然として全国平均からかなり低い記録となる等、「運動やスポーツをすることへの興味や関心」は高いものの総合評価としてはC段階以下の生徒がいることから、より効果的な体力向上の方策の検討が必要だと考える。 「運動が好き」という質問に対して、女子においては肯定的な回答が多数である一方、1週間の総運動時間が少ないという特徴が見られる。しかしながら運動やスポーツを「知ること」「支えること」への興味や関心は高いことから、運動やスポーツに対して自らの役割を果たし協働的に取り組もうとする姿勢はもっていると考える。 「保健体育の授業は楽しい」という質問に対する肯定的な回答が多数あるものの、学習を契機として運動意欲が高まったり普段の生活改善と関連付けることができている子どもの数は少ない。このことから、より「自分ごと化」し日々の生活実践につながる取組の充実が必要だと考える。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度の種目もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、 持久走、20mシャトルラン、立ち幅跳び	○前回の記録より下回った種目 50m走、ハンドボール投げ	
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	・「運動やスポーツをすることが好き・ やや好き」と答えた子どもの割合 R6：男子 93.8% 女子 76.0% R7：男子 89.1% 女子 71.4%	・1週間の総運動時間 R6：男子 590.9分 女子 435.1分 R7：男子 556.6分 女子 367.5分	

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
--------------	------------------------	------------------------------	----------------------------

具体的な取組	<p>○運動の楽しさに触れられる 「課題探究的な学習」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MYPプログラムに基づき、「保健体育」の重要概念である「変化」「コミュニケーション」「発展」「関係性」について探究し、身体活動（運動）の価値を理解し、自ら選択したスポーツを生涯にわたって継続するライフスタイル（生活）を実現・維持する重要性を理解させる。 ・生徒自身が学習目標を明確にし応用と実践そして自己評価と振り返りを重視した単元計画「Unit Planner」の見直しと授業改善に取り組む。 	<p>○運動機会の充実を図る環境整備の推進</p> <p>○（仲間・時間・空間）の創出により運動機会の充実を図る</p> <p>○子どもによる運動機会を創出する取組の立案・実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が企画運営する「開成運動交流祭」を通じて、自己のよさや可能性をいかし、学年を超えて交流を深め、競技を通じて互いを尊重する大切さを学ぶ。 ・MYPプログラムにおける「Service as Action（行動としての奉仕）」を通じて、スポーツにおける責任感や社会貢献の意識を育む。 	<p>○現代的な健康課題の解決に向けた健康教育（保健教育・安全教育・食に関する指導）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週時程において保健体育科の「保健分野」を扱う時間を明確化し、計画的・継続的に実施する。 ・ホームルーム活動において、「こころとからだの時間」「命を考える学習」を設定し、現代的健康課題の解決に向けた外部からの専門講師による教育活動を実施する。 ・自分の食生活を自立（自律）させるとともに、保護者への感謝の気持ちを醸成する「お弁当コンテスト」を実施する。
---------------	--	---	--

家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・「A-bank 北海道」によるアスリート人材派遣事業を活用した「保健体育」の授業における「ほんもの体験」 ・「子どもの『したい』を形にする」活動を核とし、防災を通じた「命・安全・つながり」の醸成を目指す、 元町地区パートナー校におけるコミュニティ・スクール（CS）構想の推進
---------------------	---

